口 10
3086

門口10
號3086
巻

村田春海ノ和泉和麻呂ヨリ答ヘタル論書ヲシテキル解
一名ノ書

○大平云此度和ヶ呂ノ論ヨリ答ヘタル春海ノ論ノ如クニ答ヲ付テ
ヤ〻思ヒ見タヘ〻そのいへる事ハをりをりしき事ハなく一
通りの回めり〻紀儒家のよ〻いふ説ともかり一つとりて実の
ハ説くれ〻只いそゆるかさ多事なといふ如くこと〻くしく
何ヤ〻強きさ為ふ云為て〻何さ紀不学者めき多詞を用ひて
初心ノ学の耳ふと云ふ偏らしく〻おど〻かけ多説ともなりその
根本とさ紀而主実とする而とよく見ヲて推紀やくもけふ取へ
ところも多くるのこなり此偏をらん人語なふおどさ紀どその

主意をうゝへ見て偏の是非を弁ふへしそもゝ此偏の説を
唱めしは江戸の古学家の先生多く我故翁の著述の内面へ
向のみ心を入用の所をのみ見て其実を用ひ其外を
己が門人なとへは故翁の説をとりて所用ひかきりを
ひて他説を多くとるなり近頃京江戸なとの諸先生家の
内に有るなりとてかくはかりなへるを故翁没せられてその
命令に此事志きりかはりて江戸人の内此事を学て教ふる人
も有るなれは及へりこゝろ其文五六月の間翁の上京の説
書貢のれ方く様し義の説と信用せさる給ひて大かせるはえく
ふかそのもくき教のこゝろ原説なる筋中なる所しるその心月

死去きましくる事に成ていよ〳〵世の人々志ひ情そ人々
世ふ まことの古学博識の先生と多のとなるへき人と成きる
なとて力と成しなる様を云解ふ所そのの説を学てい
よいよ学きまし〳〵賜ひ〳〵只人先生家なと有て宣長の教を
けふ拙し或人なる所ひをこと〳〵いふて悪く高説なり所と志きり
い云多て己が門戸を張り家〳〵かまをんて此説をと口ふ所ひ
さて他説かまひとしきるなるを故義ふんとせくる人々何〳〵
もう〳〵なといよ〳〵安くなるふ只中ふを和麻呂といふ人
殊ふ芝を愛て情きこと有ひ又奴原ふきなと見志セ
なきしめこゝ以くしてよかくんと只今ひ内そ此書法先生の

許して門人かたを會集して今義解と講釈せらるゝをはなひ
その會日其席ハ也〻小講釈とゝなりて会後とゝ称
子かて人〻ハ不審ハ〻ゝ問ひ糺めゝといてゝ事なれ和ア
呂一二と問ひ出て書海の説の非なるゝなと論ハ〻
席中門人たゝのさゝ而を悦かりゝ有り書法を太く
怒る称して伺ふ所あるゝ事もをつるゝ也さて
その論ハ引て例の国ゝ元来道ゝなきを
宣もさゝ〻ゝ学説をかまへてゝ非とゝるゝ及ひ
なるゝ時の四書の説を又別ハ論語を書つるを和ア呂
ゝ書法へかゝる所ゝ又書海ゝも同ゝ論ゝ

あるなりゝ〻ゝ帰北・陶の考なり
一今の論のゝハ北方ハ人〻多るゝ如くいまゝ其ハ文ハ入
ちゝる事ハも伺ゝ記書序表中の文字の異同をつゝ四ヶ条
のゝなれゝその見非ゝゝ
る事のゝを弁さんゝ
一春海云　おのれゝ儒者ハて侍るとかのいかゝへる侍もなきこ
とゝ　いひつのりてそを道なりとなて　世を惑むく宣もゝ
多くひの学侍る人とかゝ侍ゝ多ひ侍ゝ
いさゝゝ考へハ考ゝ侍り
一大平云　此論文の内ハかの考ゝ儒者なりとゝ云ゝ又ゝ

儒教にさへなづめる事多かりけん人今の世の儒者たちに依ていへる
る事也又一つの見識ありていへる事也つねに歌をよみかな文
字をかき或ハ日本紀の童謡歌の注釈を著しなどしてこそ古学
の学の学ひ方に別なる事ありき所ありて おのれも儒者なり
と名のりて 古事記日本紀をはじめ代々の史を撰ましめ律
令格式を録せしめ宣命（神ヨ中云々）詔詞（文ノ勅令々）を造らしむるもみな
儒門の職業なれバそれより承りてかくいひきたる事
は古の儒門にて古より 皇国の古言なども会得して古書を解釈
する事ハなかりしかど漢籍をのみよく学びて漢土の道を心得たる事
めて生業とせる事にはあらざりしかバ我は異論あることに別に附け

ぞかし然るを今此人の答への文を見るに古の儒門の人と同じ事也
皇国の限なく尊きことを神代の事跡の道の正実（マコト）なる趣をも考
へしらざる事なれバ歌よみも文もかけれども多くよろづの事に於
儒者に異なる所もなけれバ儒者ことといふなるをも不審の事にて
何かはとも少し学びかへて此儒者よりて思ひこそいとしく侍るなく
むかししきる事なれてこそ学ぶにかたより古の事に賦（ヒ）く古言古
書の趣をくはしく知られ 和戸などにも古学の業に古書
の主義なと思ひたのもしん時 つまびらかに言へん事の出来る
事をと思ひて縁（ユヱ）めおこりてその附の近道（チカミチ）のあるにおのれも儒者と
と知らるにても何へしそれともかくも是れ緊要の事にて何と

一書紀云　何ともおきるをといひて

一大平云　皇國の古まく漢國の儒道を書小説等書とて

く一つもなかりしかなどもなきをとふことを何事

なり皆多くの事跡のつきて以ことなり古の道とふも神

のをとといふも要ふいふなる何なる紀日本紀の文事ニ

くなりて多くの跡をうしなへてをることを何も漢字の学をて

つふ歴史小説何事ん事ん隙かおきて多く経書といふ筋の

教の文面のをといひてをしへ云多て道のおこなはるを

得ふいひて不こるなりひなを経書の説きのをのまふんを

て代くふ歴の行業を不義を過の多る歴史とさしかくして

れこそ説もなきをといひて

一書海云　文德実録ふ云〻宣ちうむうつふ云〻さて宣ちとか

かる〻ひのる説をてる常ふ乃りて古事記伝なくふを伝授ふ

らうなる説ともをうしなかのをい書と考案をうへふ

てえけ数のるを引出て宣ちとそをうを伝ふ云〻

一大平云　こをいてふ多やうなる云ひこをそをるへきこ

とも何をうしかれ多事の内よえあやまりをこをまを

なりてめつらしかるをこと古言の解少をいまを考つをれ

多をとえかも云ことなきふをあるあ一説ふ二つのをを

とうりて伝をるいんきを記きこと此説のこをを引出

てをくることはとのことをよきこゝろなり

一書法云　かの宣長いふ所にいはく　大和魂といふ
ものは人の心のやまとをさくらにとゝのへていひさとすなり
俗にいふわかものの意をかしこ人の意をもとゝのへ俗
義をもさとりまことにわかものの　ほんかきてかの大和魂ふ作ひ
ものなるべしかれ大和魂といふものはもの　ほんのやうなるも
のにてこれみしうかくにふさはしきなきはふこそ

一大平云　そへてけ茂の倫の能をもて初めはいへることゝ　江戸の先
きをもつてふなに成ら歌を指し宣長ら学の　門葵とやうなるも
ないのなとゝふ事とやもとをまとえ云ふことゝ和戸呂屋をふ

くしゝと思へるよりの今の八雪席の倫も出来ることゝきふかの
先生のいうめしきにたるのまゝ又ゝ此野筆用とゝの文章
をいふ〳〵異方なることゝを敬ちて　のきれ多るとゝ記りて
ほひふかあさ〳〵かくゝいきし倫ほ及ひ多ることゝ　春海
先生なるの人根小人多きひ小人らんほうて　知て和戸呂の方
よりこそ云へきるなれ

一春海云　さいつころ事のついてふかゝ文章のゝいへる時ふ野筆
相の文の事とかゝしめいへるとはゝ多ゝの終てけふさる
るふ作ふとゝ

一大平云　ゝの倫をへて身をこゝろけふいゝこゝふて此はゝ

痛きことのこと　皆うの和麻呂の初めは偽ひいつるうかし

一春海云　日本の道といふるくなきるもことおのういつるとふう

くいやしきのふくるあるくなるとそ宣もいふ狐ふくかもしおるに

れハさくそおかくそめおのれくそとふるくこ正くそる所伝

まくそ今の世の和学のもかるの考根なる説ともかく迷ひくへ

らに

一大学云　ケ枚の論の文といふものく点ふ異芳の伺とせて人

とあくもるくことくなるへきくこくなれくさて見るに人へれくも

和戸呂とふ人の志ときくこと云とかもる人の伺ともおほえぬい

くくいやしきふ人のいひくこくもうの弥宰和の文のくこと云付そ

の今の書ときせるくて却多年れくるくこくく百里ふ形とのく

とふて見ふ見めくこくなきくもおりくさういるくとさくの

狐ふくくくある伺くいくはなふくくこくそ狐のもく大平もいさく

うふ人の伺と出くて載きくこくとりさん耳とるるくて芳へ宣長

とるやいふ人くて数千年を弥くる古狐ふくそあるへきいくるる古

今和漢の半ふいやしきまくて色達くるる人なきくて古狐といくん

もるくくさくくくさきくこくそ和戸呂大平ふくもみれくくくも

多れさくて又くきくふくあくでどくやふくれいくくくの人と

くくるふ狐でいるへきの世の人くかくまあさるるふ用ふるくへい

さくくの世の人ふくいるまくふいまなるふ狐考とくまはくくくく

不知為つる大言と云ひ弱己の浅学をもいとよく心をしてかく
言葉の門人なりの先生くとあがまへうとそれか個なかあて
自ら先生らしく多ぶり虚名を貪てよつものくしくふる
舞ひ多りとゆおうへつとさて今く昔和まろとそまんなる男あり
てうの大和むとをこうて 浅学疎漏の究と異なてめつ多不特心
しれぐせん方なく女性を弱うて大きなる尾とうへられ
けるとて言ふて和尚とへき己の学事のいとなと貴してその
おとふ かつらへるて 狐てうまるなりうこと 猫は猫と
うるせ子供とそてうのきつまあとしくと思ふるとふ夜ぐ志
ら考と時て考て不れて何とくやそ 橋のうてうの石地蔵ひく

その猫と波かけくしして居うとそ後もあるこけ小狐はやく
とはうまも多うなうを

右の一段なんの益ふ多なる事なれともこのかわて軍芳
なる目を出をこてなれてこふ多くふまて云のをなり

無根なる説ともおくこのこくく前件のくもなるをいひ
つのりてとある所を弁せり

一春海云 そもく道といふ物て天地自然ふなる物ふ待りて人
作ふなりいて多ものあて物のをとと

一大平云 天地自然ふなりと思つるこ多へて神世の神のけ
め弱ひて今も神の行を弱へ道をとこそ云へ聖人の教

とるのみにても道にてもなかるべきものなれば仏法の道にてもなかるべきものなれば
道にその事ともい［まかのひれ］と云論の中［くとれ］と云書もあれ
まひらうなれば今さらふ云ふにてもなかるべん
一春海云の宣ものもうの不学無智なれども道といふ物にいふ
なるべきもうかひ者とも又ちうき世の俗人の道に在人の作
きうあしなといへる 修論とまことに思ひてなれば大和のおん人
なれども唐の人の作る道とも用ふまいうもして唐国の
道とふるものをかうへいてそれを自ん人と思ひてかうしくを
ろうの事をとうつふそうもあるふる国をそうとていい
かへふ論もなきうう 於一言とのしるもうつる国の人の我国と
そうもいへふ論もなきうう事なれといかへふ論もなきうう事とのなるうふ
ほうもいていうんそうそうのうふ論もなきうう
一大平云かうしくをうの道を破せるふあうとふうく 試
云考へてさて教ち教言を思ねひうふ論一論おるなう
そうん市の道おうふるふるふかとうていうき世の害
となることもなれば教ちをきうとかうしくに言てしうく分別
なる事なうふの有余年世の人の人の保身多古きけれなれ
て容易かて文引きまき事を思ひ先うしてきく人の事を
ききて教ちとのして論破しかきうるいかへふ論もなきうう
なうとふるものあるかうとうきうきうきうこうと

世の人の信見ののそこなわんとて又いとゐるまけをしみとりいて
神世の事跡のこゝ〳〵信ずべき事をとゝ信用せさせんとて独代
の有さまのさとりこのやうきの事をあらはしもちゐるゆゑなり
らく除く思へくまうてふかさるきゆゑなりあるなりそれとかの
義をもあやまりと思ふさるふくらのもの生の道を考へ思へいとく
さらく世の中の有さまふ節節を合せしらさるかなふるもわれ
えこそ真の信用とるなれ真海もまり雇人なりとそ根源
く考へ思へ〳〵と思惟せられ氷解せられ事をかの
んそこの事又和歌の趣を論中わをねむこころをかきしら
一真海云かくの如のさもりの事の道をふる暗昧を

知なる人のみをうふいしかるる事なれかの諸子百家のさま
ところの道をもなれて又ふるこころのことなるようふれる
多くひとなりてなふのゆゑよりもなきるべき
一大平云うの信子百家のこゝの和文のかきはまあくて世へかき
しこゝかゝ国の信子百家の道をそれ〳〵の見識の出なる和うら
ばまく〳〵とそれもをとゝいつまを一見識ふく所ありて
いつゝ なるもとゝ作業をとへて ゆふきおとろくへき事非
きふくなりなる人のさ きふそもきるかひて学ふとこ
し用ふへき道ふくなりふくもこの方の和学のもか
らの疏をなきふくとこそて信子百家の信

一見識つてのる事なれども聖人のとふとをとをときこゆ
さてこそふ儒者百家の道のまことにて儒者百家の道ゆゑ聖人
の道のまことなるゆゑなとをいへるを聖人ことなり儒者百
家の道の聖人のたとへるゆゑまことにとゝのはなれこそふ
いとてもよきあとなり

一孝海云 和学のともがらみなふ聖人の教を横排ちんとをるゝ
和歌の若しきいとふへくふくしへ

一大平云 聖人の教を大きなるこふ事あるかもしらぬるなく
ちひさきこふ用ふるかもしらぬるなく儒者として和学
なるものあるをいやとくこゝろひやとくこゝ聖人なる

ものとをこゝろとしつる事勿論の儒者にて例の旧きき説と漢学
とし儒の説を学ふ人ゝ孔子ばかりなる人の所へき今古学のた
とを多てく皇国のまことに故ゝ一を考ふ学ふ人も右の漢学者のふ和
ふてくをもてさてその漢学者のふ和ふて漢学者仲万の云事みて実ふ
正論なりや正論なりやとやも考ふこるものもそれ多く漢学の上の
一通りの説なり今古学のまなびあらけてその儒仏の道のみを
の道ふ害ある事と云て他ふ孔子聖人の道の徳なるまる
こと又学ふ用ひて益なきことをいとふ云ふこゝろや 皇国の
道ふ害ある道と云し論ゆゑてやえ切へきみふ小聖人の道
を横排をるふあるとよく考て弁論をるなり今文ふをるこゝ

みてくにのおほきなるとりことへて古傳かてつゑふ古学のやまの
聖人の道と称ることは学問かくなりてうへ不をなきうめ
ゐをもて古学の書ふ著して弁しおきる傳とこうへ
てこゝくふ傳説とへきなりさるんかく又古学のやまう
も会へき事なり

一書法ハ聖人のこゝへふ従ふてこゝ行きゆくこゝろ
いかへ道とゐるをかなへうへんもなく

一大平ハ道とゐるをこゝへうへ人なりしうも天の下をう
治まりしなり

一春海ハ神武の山附りてなくこゝ製度と建ふる
ゐも聞えを

一大平ハ神武の山附より千年ゐるのなひく天の下をかと
く治まり来りしなり

一書法ハ浮説ゐて太古のそのきなりしを唐律の御
明ふいりて姫て経典ゐこゝ来て やゝ聖人の教この弘ふつ
ゐこゝ

一大平ハ仁恵の御時をまてこゝさもみゐなることをなりし

一春海ハ推古の御時ふいりて姫て冠位と定められ聖徳太子
憲法をつくりて学ほとこゝのし

一大平ハ北山代のこゝろいくなること姫まりゐ

一春海云　孝徳の御時かいこうして諸〻僧侶をそなへられしろ
つの製度やうゝかそなへられ
一大平云　ろくゝめ事もやうゝかつろ
一春海云　天智の御時ろくして令を製し給ひ
一大平云　いよゝよろくゝめ事もかり
一春海云　文武の御時かいろうして法海ろか初して律令をなし
ろくつくりを給ひ此世ろくも官位服飾礼楽刑政ようつの
製度大小備りて風化海外まで及ひかりろ国か
てゝ開闢ろ来此世を極盛の時とこそいつへけれ
一大平云　かゝるき神世のなりけるとうゝなひて国〻の国

造縣主の始めなんろも草めゝ所にさうゝき漢土の風俗を
ろまを給へるを世人のんこさうゝくなり之をなろまる
ろを此れ風儀いよゝろゝまを給
一春海云　ろれろ後分かいろまをろ
一大平云　皆こうゝ普通の僧者のひろくろ僧なりかる
かゝ国の聖人ろ者の教を交へ給へろゝ上古の御代の明
らかに治まり来ゝるさとも此けかあれを思ろろ
まゝかなゝ山へき事し
一春海云　かの宣長ろ云ろゝみろかの聖人の教を横邪せんと思
ふかり又仏の事ゝあるを用ひて孔を廃せんと思へかいとゝ

仏法うつり

一大平云　聖人の教かて是まて害なりと思ふ人多く一つ
漢学の害多かりふれて世の一切の天下の一切の仏のつ
きも世の害となるるいとく大きなる事なて漢籍学ひの
なぐさ いとくまくしきすなりそれとして君をかろし
め奉ることろの出来ることこれ聖人とふもの教のこがみて
世の大まがことも世の人聖人の教の世小大なる害をなす多ること
ふんのつらさるとかへとくもあさましきこと古への世の出史と
とくに元文保元平治元暦文流等の世とんるへし
一春海云　とく宣長ら云こと聖人の教とろしうて廣く

ふんかいう形るときをかりて世をまつりこと人をとさんと思ふ
ふう
一大平云　天下なくてやくいふへきこと不審とする人なくて
今一度仏を平らふして所ろれ思ひたるもよりて万あやし
き神代の事論を上もなくいるきことふおりひ千有余年人の信
不多聖人の教をとろしとそふかく見るあなくてやくいふへき世と
故ぞ人を治むるい神代の道を守りて皇神多の出んとかこと
をうて仕へ奉る天皇をかしこあ先を思ひやる不仕ふまつる
ことなくこと古へ学ひの云とそころなう
一春海云　わう国なる道なくとふ世ハわう国の古へ人の詔ふとう国の

古の書よりつゝしの道を説る書もまこと成ゆえ是小道
なりと云る論をまこと作て明らかなり多し日本紀に神代
といふこと天地開闢の初なり神祇を崇奉るを以て
いろはにて世をまつりこゝろ人を治る道といへるあり
一大平云 道を説る書くなれども皆是を明らめ
翁の教えの著書を見て是人一日も神祇を崇て神
徳を崇まつる事一ゆえ世を治め人を治ることを云ふ
といつるも世をまつりこゝろ人を治る事をのゝ
ちくゝ言多つるゝ是国の流の教なり名号を道の枝
道なり多 皇御国の道を以て神祇を崇まつることを第一
とする神と崇奉しまつる世を治る人も天神地祇の御
恵の明なること格別なる所なり多 神を崇敬まつるを以て
の枝教くゝ及ばるゝ道この事くゝ多事なり
事なる多やとくゝおろそかきに成ることなれ
一春海云 宣長のこゝろ古事記日本紀の神代の事跡を考ひて
道をとき多事多ゆえ世くゝ附会の説ゆえ作なれば
二書の神代の事跡のこゝろいつれの所より君臣父子夫婦兄弟朋
友のこと説る事一つるふり又いつれの所より政を施し国を治め
んとする多めしとなるべきを載る事一つるふり此教の旨を
なりかしこ道とこゝ多る書ゆえ作る事なりけり

一大平云　こゝ又前段と同しことなり　書紀日本紀の二書ともに
道とゝなへ書ふ所のことも道とさゝふ備てゆることを
とへて神世の上世の説ありて君臣の道を定めなりて分ま異
国の聖人てふもの道とゝふ教を説ふ教へ伝ふ人もん矣
ものゝ教とゝ教ゝ矣なれとも漢土をへなれてゝ為事を
皇國の古ことの正しき道をもゝ備ることもゝ伝ぬ
一春海云　荘周の言ふ六合の外い存して論ずといへる今神代
の事も存して論ずべき事とこそ思ふれ
一大平云　荘周か言をゝふ引き多く存て論ずとゝふこと
をいふんとてゝ六合の外とゝふ事をこゝふ命名引きなり

そも〳〵神代の事を六合の外の事なりとゝふて六合の外なりとて
道と教へ人と論ずるその事論ずべき謂もなし　又神代
の事と存して論ずとゝふこゝ拙くひゝくしき事なり
天地の間ふ所る今月のことゝもゝ神代ふ由来せることなり
そのなかとゝ多くのことゝ書て行ふべきことなれとも中國の歴史
伝事も為来古実と顧さんその跡のまゝふ守て行ふべきことなれ
神代の事をかむゝとゝ為るそのなるうへとゝを老荘ふもせ
よ孔孟よもせよとへて異ものの教の法ふなるへなるこゝねもも
国の道とゝふ中国の名てゝる語ゝ為て異ものゝ道とのそのなつ
道の正道なりかの神道とある日本紀の文の語まて神とまゝ神

うやまひて学び給ふ人々のつとめなり孔子いとゝ大事のる
なりおろそかに例のふるまひなるべし
一春海云　あらまほしきもそらごとなれば或る人多くおかの
二書の文はうへ申て倫とへき事を一つ二ついふん
一大平云　道のまことを命令して信ず婦人をこれを出家多を悪
へつまとをてはまくけらるこをかをこをなり
一春海云　古事記ゆを日本紀ゆを伊邪奈岐伊邪那美二柱命
をを左をりをを右をりをを漢土の看をりをて後かりひをる疑
なゝ又伊邪那岐命のまつ唱へ給へをを為をやめの言をしをを
ををなをを仕をもをを同書の内をて義理分看なるゆ仕をを

一大平云　義理分看なるを男女を漢書を拵ゆていをを形をへ
ゝ神代の事を漢籍ゆをりて仏教ををを例ゆ扨子大ゆなり
漢籍の規矩ゆを返ひをを義理分看せをを云ゆゆ仏教ゆを漢籍
ゆをを汚をて神代の正実なる伝なる事を仕ををへゝ男を女
女を右ををを事ゝ神代ゆ此義ゆををゝ伝伝へをる事なり神
代ゆ此義ゆををへきこを伝をを考へをへき又女神のまつ唱給へる
をををなをを夫神の伝ゆを夫つ神の伝ゆをのをまへるをを牝
鶏の朝ををこをなををいへをををををををを為をなをを云こをもいと
おろかなる説形ゆ仕一事のを牝鶏の朝ををこをなき理ををを
仕給の事を何も漢籍の理ゆをををををゝ

天照大神女神ゆ

おなじ国のことなる事をいろ〳〵あつめたるをしけ義理矛盾なるもいとこ
ろ〳〵ふつゝ上の二事も漢土の理窟よりて僅をこと
ふあるべきをもをしはかるべし〳〵

一春海云　蛭子をうむ三歳ふなるまで脚弱くして月日も山
川も草木もいまだ成ずしてなりまへかいう
なる称のありて暦法を定めて三年といふ事のありかをいぶかる
暦考より

一太平云　書紀の文に後より飾りて記さるゝこと多くあれど
もまた後世と上へめぐりて紀るまゝかてもあるへし又実は神
話は然法はへるまゝかもあるへし日月草木のなきに付かも春夏秋
冬年月なく自〳〵あるまゝなることなるまゝきかもあるへしこゝ
の事皆くゞ花ふもつゝひゝ古学者くかをうとゝもあり
なりこの事をまゝ古事記の文面に三年といふ事なしこゝ
とをゝとゝ付て右のゝ多くひくなきことなり又真暦考を
論〳〵多くふを宣長に紀を主根のことにいはふまゝ〳〵といい
ふをも多くへて紀の文に飾に暦添の事多く取捨をへ
きことを多くをそのまゝへをなく一つかて論をくゝ
ゝあることなりけ紀ふこゝふ三歳とあるに此附の事跡を失せる
かてゝといつるも多くへて後を上へめぐりて信ることあの
一つのゝなるに暦紀の間まゝあまりなりてあゝふあるゝ

なること

一春海云　天日の神天の岩戸にかくれ給ひしを云、かの二神の
鶺鴒のことゝこやを知らんにことちひきたるのふるまひを見
そなはさせ給ふへしなのことゝも皆しもいらしとんてかゝる類の
事を理とおしてとかめてかきへつらしきさかるへし

一大平云　さはかりの事をよく辯せんとてくはしき事に
漢字なる讀くをなれは何のうたかはしきことかあるへき　古
事記傳　ふと紀　ひきみるへし

一春海云　神武紀に自天祖降臨以逮于今一百七十九万二千四百
七十餘歳云々とあるは付論にて神代の事跡を虚誕にして正しき
傳へなく何れも皆後人の附託して作れる無根の浮説なる事
と定むへし

一大平云　皆旧くさき論なり既に廿年以前に人々論して故翁にも
申しおかれたることもなり年紀のことなと次のまきにも
さまさまにあるを見るへし　さて無根虚誕なりといふ證文は古事記
序の文に　於是天皇詔之朕聞諸家之所賷帝紀及本辭既違正實多
加虚偽當今之時不改其失未經幾年其旨欲滅斯乃邦家之經緯王
化之鴻基焉故惟撰録帝紀討覈舊辭削偽定實欲流後葉かしこく
もかくのことく詔しおへる　又於焉惜舊辭之誤忤正先紀之謬錯
以和銅四年九月十八日詔臣安萬侶撰録稗田阿禮所誦之勅語舊

錄以獻上者とあれく神代の子孫虛假といふべうもあらん

一書法云　此偏勅くまもきき正論なれく

一大平云　何ぞ西備こいふべきいとりとと多きむらことのきは

こなり　かぶむりことのきことを云出て多けくいうまいこと多ふこ

ことこしく者つけられること云ふも多くかきるもも

一書法云　學ぶ百ものの宣ぜいて事あるもおのう論と雜ぜて神

代の事跡を正しき

一大平云　この云さる仏ちなふある文祈こと是いやしきい

ひさなり論をてまるきこと小く声高るあふよ俗ういふ

邑えるくてをその言ふ理なくてく多れうおそれん多れう孫さん

一春海云　正しき俗へなるふうふうひなくといひなさん說くの多

りうこそおかえ作れ

一大平云　この四うう見せんうなけ形ることをつひなうこれ獨さよ

うりのて歌るおさ作をうくへるくふ俗うう文詩るんと多へ

いくくこれう雜ことふ翁の詞と引出て多者とくせん早く翁

のの四うをおれ多ることを引出てあう多まううこと

なれもかくくうう助いうんう義一人の詞とと思こくも

翁う神の道上代皇國のさとときはとされ多ことく上ふもいへ

るこくく一生涯百千の語をつくして四うくおれうう書ともふ

何ることなれど一つとしてぬきいづるもなし　拙きに似たれ
ども此の段の論にこそ何らしく六年已前に既に論定ありつるこ
とをもあらしく言いてられたるところ多し　されど
又にくさも笑止なるをもおぼえてにつきてかくのごとし　世に人いまだ
古学の筋道をもえしらぬ人の多かるべし思ひて旧くもいひしことを此
に翁が著しおかれたる　直日のこゝろまき直日霊を論じ
たるまゝにおもてにて書に翁の答へられたるくさをみむとて此の別
巻をもつまの内道にかゝれる所にて又衝口発ていふみだりなる書
を破せられたる　鉗狂人といふ書又そをに秋成の評弁ものして
又答へられたる事をもの内にしか度の論に似たる事なども何れて其の

らをいひてつまびらかに答へられたる其の論は一向あるふ
ものやうなるみだりなるをも何事につきても学者百子の家々いひて
きみともこそなき人にまでとりてさる人をせめていひまはすなれば
くさ此事ともかくいひてまめやかに論弁をもするなるまじ　直日霊一冊
くをも全篇道のことを論説したる書なれば一ことも一くだりもいひて
さまだげ有るまじけれども論ひにさへとなる所々をいふのみを抜き出たり
「皇大御国は神祖天照大御神の御生ませる大御国にして「万国の
国に勝れたる所由は先づここにいちじるし「古への大御世には道といふ
言挙もさらになかりきさはあれど物にゆく道こそ有けれ物の
理あるべきかぎりは万の教へごとを何の道くれの道といふことは異国

論なり「經書儒者のよむ六經等いふ書をのこらず（て）彼国と
しも道正きまなきいひのしるしるべるなりかく道といい
ふことを作りて正しとしかく道の正しきなれのことなるをうつりて為
けきるかはいふことをとなれども後の人の世道のまふ紀をこそ
ひのめさる人代ふ一人ふ有るを紀るをかのその書の史をもとえん
てもきるきあるを「聖人ふをまつ已しきその道かをもきて書を
なろかしむをうるあなるをみ教作ることを紀人よりの紀
「いとをそをを紀大内むの道をおきなるを他むのかしこころ
き言行をとを紀ををしをなるひまべるうを直を法ろしふも行
もみな悪きまりかをしひをふの他むのきひき道なるをえ

法まりかをを紀ろをなるをうしを後のかりををえを聖人の道
なるをを国を法ろを紀ものををしをかりかをなるも
をと聖人の道の蔵なる事をとえををめなる古の世代を道をか
ををを法ろしをと思へ「天つ日嗣のこと所定を天地の共初の書な
きをけをのかやしく奇くふ天むの道をとをれを正しきを
貴き微なりなる「漢国なを道をふをかれをもをえなきをれ
かををりみをりなるを世をかまをしをみをれを移ふ傍の国人ふ
かををををををはれをををを夫牧とをを皐めを人のめをを思へ
らををし者なれをもををるひをつををををうをひをつをををををををを
天子ををいひを仰きををなるをを所をを身をき所をををるをををををををを

儒者く杵よ紀国とや そもそん「そも」は道といふなる道をとる多つ
ゆふ天地のおのづからなる道ふをつくる人の作まる道ふもなく
る世界巣日神の御霊よりて伊邪那岐大神伊邪那美大神の
始めひて天照大御神の受給ひ給へる道なり「さてその
道のんく古事記をもとめ伝の古書をもとく味ひ不孔を今もいと
くおもふまを世の物識人ものんも皆猶ほ日神ふ御ふうて
多漢書ふのく惑ひて思ひ思ひ以ふをえみな神
と漢よの意みて由こそ道のちうをえさきに「多つ
のさてしに孔が書の流のこんの原ふ深きてをと天地の自然
理と思ひとる故よりとる思ふもまつ孔はまつ孔てか形ふへ

流をはめり「世間の説く神代より伝へ来りまつ来りて世にうる
人のさうらと加へる故よ表ふ淆とと少ゆるも実ふ世をひ
もなく人の智のえ測られ及ぶ所ならぬ理のこれなるとその意をえ
命ぬそうの漢書の流よ原ひとる故なり「世の中ふ生といける
物る出ふいるまでも己ら身のひとふ必ひのへきうきうの業い
産巣日神の霊ふよりておのづからく知て成と物なる中ふも人て
殊よ稚と多る物とまれ(まとその稚まる)孔合て知へき限て
ありとへきかぬりてとるものなるふいそう其上とへなく孔るこ
よのんん教ふよりて孔ありとえ世ぬりのといく人てる
出ふおとりとやせんいとゆる仁義礼儀孝悌忠信の名ひ

皆人のかなしみあるべきはなれてなのへきかまく義とかく
さまでも「おのづから」よくさとりてなんこそなるんかの百人の道をも
と法りかくも國とさひてとさんとして作まるぬれて人
のかなしみ有へきうれうとそなきひしく義へ多てんとそう
法事なれまたのそふかれたる故ならず人をたて
しく云なく四こそふ紙幻ふ人と学かてりかくきを
天理のまなる道とそふそいくく多つて [まろびれ] 上代の
なるを後の天皇の御事を今成る秘事し [くとを] 文字なくて
三世のるを消める例の しとく伝と授ふいへる法を授ふよ
いまく文字四系さるし以前の上古のるを伝へなく

しくなるつ志をけなきなてのをなる故ふをの例と思ひて必皇
国の上代も同しく紀へき理と思ひなるひゝ伝ふて
ふれを正しくさる方を規矩みて正しき方と改んとるりの
なりまつ皇國ふく天地のとふれ始りて国土日月等の始
なきまて其るの詳ふ伝ふり未ぬる天照大神の御生まれる
国ふて美むふ稚生人のも直りし祭てもなり其八中古まて
中ふ文字とふ物のなりらなくしてめなる玉垂の伝へ形り
徳も以へ「そも」新者後の天皇の上代の古年とふく造り
なし給へるこそ應神天皇より天武天皇まて三百年の間ふ
漢国の書の暗とよく法て不人のをを学ひ得ずる故なりといへる

ものしけ侍の如く漢土聖人の道を学ひ好タ人ふりて上古のものを
ふく造り飾へるあなうの事も其意も何もみな法なき
ひてかしこけふこそ造りあふへきなりふ法なれとも大方其カ
て唐うてうの聖人の道ふ虚説なりとて取りけぬ類のものと神代
ふく多きていふこと彼ふの書よりも造り事ふ物ふ多し

[まろれひと] 日の神未生れ給ふ前も常夜なりしを [直日霊]

日の神と即ち天つ日ふまして高天原記書紀ふ明ふ分て
段なきを今新者のさえ物ふ法を以て返て法ふ有る
ひ彼天の石屋戸をさして隠りまして時も常夜なりしかい
まと生まれ出りし前の常夜なりしいふと以ふ考て見

こいへとをふんつきて疑ふこと
こと〳〵ひとそ多ふこそをさ彼れ世一つと以てを返て神代の
真実かて虚偽なりまことと思ふ意一一を後の天皇の造
と後へる事なりんかえうふ法へて人の伝とまき
事と造りなりんやい此而ふ物ふ人をうめて味ひ考へて
神の道不行人倫の理とかて人のよく測も知る而ふ物とを
をむく伊邪那岐大神度国ふ行給ふ時ふて国と閉て幽と焼し
給ひ顕むふ坐ける人然ることなきを思へて黄泉国と閉ふへき
所以なりて国〳〵顕国とをかみかも明ふへき所以なりて明ら
ふなりて日神もいまく生まる前の時ふ不

以の理はもとより永劫不変なり何故に思うと
も知るべきかなりと人のえ知ぬ思ひのかの理乃て明らし
なるべし然るに日の神の隠れ石屋戸居の時に幸成なりしに又
此ふたつふ既に日神生まれて天地の間に此神の照し給ふ
べき道と定まりてのうへにその大御光に向きて明らかに
なりぬ[illegible]雖者上件のもとを考へ見るに今の疑ひおの
ゝ解なん[illegible]解とい[illegible]ふ迷きことを[illegible]
[illegible]命といふ道をもて[illegible]ること自然ふ実なるを[illegible]
[illegible]まりてゝ[illegible]ん又[illegible]
[illegible]

なるとや雖者神代の明りとく決て幸に[illegible]ことをいひて雖とも
[illegible]の明りとく[illegible]理ことふ[illegible]
[illegible]なる事かくの如く況や天地の始め
皇神祖命の作らへふ所[illegible]
と数ふへき十干十二支の数なれとも[illegible]
[illegible]の神武天皇の奉ふ委く論しかれとふ[illegible]
その所為[illegible]世を治むへき道とする[illegible]
[illegible]皇神の道わすれ給へる故ふ天下[illegible]
と雖者[illegible]後の天皇の造[illegible]
の[illegible]なりて世を治まるめりとふことをんとするいと

ときなきをかなしみ根こかぎりのめぐこの賜をふるまきるをとく造るを
とのひけらて賜をふよ紀をまうといふんとをとをとく多ルの
ル儀なるんをも〳〵上代のてふの遺ちうとをて世と法
ちをふも多めあるとそふて道の書とのをてて本とまるまるなう
今ふいくるまて天下のちく法まるえ形のをなる事大本
の皇統の動き法てさるを以てちるへしををひ道てをふを
らめあなりをも天下をく法りて失なくをル真の道なり
多の偉の道て伺ふを世ん後学ル乱の多きく福つ日の神のん
ゆて毒ををる其ふの道のをひこまるめをし紀ふ後世のなり
さるををて人の道ふなるさルて世と法まるめ、めとゆくを

人の家ゆ火とつけなるをその火と消て乱ををルく はるを
焼失なん物ををいひてをこるるかく 【身のひル】 皇統の絶せめく二つなく
出てくるを乱をを 【百日要】 二つなくめてをるまをと知りなるを粗めて
多をを異国の道ふ伝をひて此道と伝をる事ふをををををををふ
皇統の毒霧ふ絶をるくさる大本の一つとめて天照大神神の道の美
み形をと乱多る事をちをてよ 【衛口発】 本邦上古之世ヲ天神七代地神
五代ト名テ国史以下ノ書ニ神代ト云神武紀ニ此間ヲ一百七十九万二千四百七十
餘歳トス此年数国ヨリ論ハルニタラス 【鉾狂人】 此年数く自天祖降臨以遠
于今とふ乱く迷々藝命の天降坐ーをふいなるをその上文ゆ我天
祖とふをと迷々藝命なる所なるをて知へーを紀をと今七代五代と合

せての年数のぬくいへるく深く思ひ徳耳命より四なるの年数と
なりいく百数年とふことをあるとさて此年数と論ずる小多を
と為てきみうことこと偏るる小多さることあるとあるかふ
とへて神代の伝説てふ所大よ虚矢にして所事の事理ふこと
なる故よ人皆元を信ずるのみてふ「抑は天地陰陽人
のつふふなる太極陰陽なるものぬきい小理ありて決て成ることを
得ずて成ることを矣微妙なる理ありて成ることを知る神
代の事迹ことをとり易ひやすきものと多うへきぬし又天地
ひ未てよの第く易人をなるへりて神武紀ふいてして年数
も信ずへき為を虚妄なりとして取ることふ小愚昧を

ふへし　云云　さてその神武紀の天孫降臨以来の年数を分りか
ふるの三代ふ百〳〵分ときく一代大ることを六十年歳とり
ふかるる色きを古事紀よ日子穂々手見命坐高千穂宮伍佰捌拾
歳とあるかくの如く此尊の年数の見みしくく又神武天皇よ至
るてこいよくちまり為へることを人の能ひ所へりて元と必定
多へき故のことこの子細て古事記傳小伴よいへまてこと少く暑き
つ上田秋成評弁よ神武紀小載多る年数を不見論とふて誠よ
狂人の衝口発とる詈言なり大古の事蹟の奇なる誰ふ理と
究むへき天地内のる悉皆不可測なるぬてあるを心編なる
ぬ人て大古の霊奇なる伝説能ふへること云云古言ふを物数よ於て

と大神たちを現ず幾柱と稱(ミナ)と一名洲三千洲の数或は斬(キリ)名三
段等のおりかく大八洲國八百万神立石箇磐石千頭百机(モトリツクエ)八千万
神八重垣八咫鳥等の数といふく是へて多数の字にて手指以て
算ふへきかくなるめを地年歴の云量廣大なること今日の人の所(ヒト)
為めきて算へつめしく如何ぞやとゆえ 宣長 古事記を世く
の天皇たちの寿年の数を記して或一百三十七歳或は一百六十
八歳なと記して上古の伝へ小絶て物数とくはしく答へていへ
る事なりともいふへきに御巫氏の神武紀なる年数を拠
いまりくすべき事と紀を彼れ人い古へ小昧き故なる数の書き
とく録して多くその高遠なるを笑ひ疑ふ不足論

といへるに英通の漢学のなるさらしらずして古学小ゆきる故に
こ小ふ鉗(ヒ)り紀ふ今上田氏くまるを生なるを録して其
為り詳細なるとうくひて上古の傳へ学いくと思へるに御ふ
ゆる事と比偏と古学をかなへり大平云以上のる事成の論の答なる
どなる所なる仮る事なれて峯しう 玉つま 分 かくんと法くなれ
てもそくに古のこころ初を多へめる学ものくに縣居大人たを始り
けるひ大人の学のへまくおうこうさうしりの世の学問くおもく
古今集たりこなさふのそうてまりて万ふなとて多くいて四をくんも及ば
めとしてけるふこ歌のまきなりきを思ひ為れ迫きとまきへ又その
初を今のおのりあとしてけるなることをへて思ひも及くさうし

本意なるを今ハその古言をおのか物として萬葉ふりの歌をもよみ
いて古への文なとをさへかきなすことゝなれるハをりしけ大人の
をしへのいさをにそありける今の人ハおのれらかほこることを思ふ
めれとはけ大人の御蔭によることをしらすなし又古事記書紀なとの古典を
うかゝふにも漢意に泥むことなくされしをまつ専ら古言を明らめ先
古言によるへきことを人皆しれるもけ大人の恩頼のゆゑ
なりのみさまにそありけるをもしかゝる尊き道をひらきし
いさをしられぬるいそしみよふいみしきものなりけり
云この条も古学をするこ
ふへき心得をいふなり
大平
四十一丁 学問して道をしらむとなら
ハまつ漢意を清く濯き去へし 漢意の清く濯きさらぬかきハ

いかに古書をよみても考へても古意はしりかたく古意をしら
てハ道はしりかたきわさになん有ける そもく道はもと学問
をして知る事にあらす生れなからの真心なるそ道にハ有け
る真心とハよくもあしくもうまれつきたるまゝの心をいふ
然るに後の世の人ハおしなへてかの漢意にのみうつりて真
心をハうしなひはてたれハ今ハ学問せされハ道をえしらさる
にこそあれ 又卅三同 漢国にてハおほよそ人の禍福世の治乱なとをす
へて世中のあらゆる事ハみな天よりなすわさとして天道天命天理
なといひてこれをうへなく貴へきものとそするなる
さへて漢籍をよみて真の道を伝へ得て萬の事ハみな神のみしわさ

つきなることをえまうさるゆゑにみちうけていへるゆゑにそもそも天つ神らの坐まします国のことをいふなり
ゆゑにかの天命なとゆゑにかくのごとくいふ神を号
ゆゑにそもそも天をさるゝ者をかくのごとくいふ宮殿とのゝ
ゆゑに畏れて言君をさるゝかそれ事をえまうさるゝ如し
かゝるゆゑに教へ神の出ましなる事をえまうさるゝけ天道天理
の説を信じ奉んとする事なるを皇国ゆゑ真の道のこゝろ
得への有なるゝそれをく所なる出るとてもかのみちの
一説をのみ信じて天といふをいみじくなるとて
事ふかの理とのみいふゆゑにかくて其の
ふかやゆゑ又太極無極陰陽乾坤八卦五

行なとゝいふことくゝくこゝろこゝにいなるゝとあり陰と人の
ゆゑにこの造説をまことゝおもふ事なり神
の御典をうけ学ぶこゝの理をかゝる説なくいかなる
ゆゑや通きこゝろよりて信ずとのきてこゝろ人なる
かゝる天理陰陽なるの説のむかことなるとえさとれを地内
とゝえなることもゆゑくさるゝなる陰気の法くさるゝ
ゆゑにこの説のいまゝ多ふかさるゝ又ハ神の典をうけこ
とむかくゝ紀伝道の学者の猶おてゝとけるゝ者弘仁代の
日本紀私記ゆゑなるゝいつゝ陰学の能力をて考へこゝろ
のゝかして神典を学ぶひとゝものかゝるゝかたのこと

初ふ[illegible]をへてうひ〳〵しく世こゝろ世と[illegible]道の[illegible]説も
いとなきまことも説こゝろことなく多く文ふみを作へきまゝかい
へるてうこ郷とも全相のむしの儒者くをへてかゝ国のやう
かゝ己り弟ふしてあるんくなるし世へ小林のかゝをそくとても
深をふこ記ふけるるこゝろして説もをくゝ不今を儒をよふ
る後説もなくてやをくふんくるし後の学ゝをくてもゝふ
神学をゝ一なれ出まて学ふをまし〳〵れくつきゝふくを
にくくなるもて世けをなへてのをのあゝ人の人なるさゝく加て
神のれ典をを者もしらをくをくて文のまゝかをくをの
かのゝあむ筋を引つけて作る仏を作るを儒をとれまゝ事を

なれ作をそ学ゝ仏をゝ〳〵なゝりて世ゝまふ迄世をなゝ
てを又やをくふゝの仏をを交ゝう非なることをちゝてをれをて
ふをゝ〳〵儒をを説こをくなまて留てをれを作をふ古の
ををををゝて[illegible]ゝを儒をのをゝめるゝ学へゝなゝ
作る世へふ迄世学神のををて説説をひをゝを儒ふをてをふ
神の道ふ作ををこのをゝをゝかの仏ふ流ををゝることの非をふ作ゝ
なゝゝみつゝ又儒ふなゝゝ事をえをゝをゝをくふをゝかく
ーて又迄世学ふい志ゝ儒よゝることのゝゝゝきをもやゝ志てつを
そをれをのをゝんをゝを者もこれゝを世をゝのゝれをもをれをを
いをゝ説〳〵説ををくなゝ事ゝこをて天理陰陽をゝふ説をを

なくまことくんぢうもそれぞれ例のさうらのえいてくこそ天帝と帝
都のそこ〳〵天照大神神と天つ日ふ所のとこ〳〵海神宮を一つの海ン
とそるるもひとへてるるふかのくにのくにのくにをあてさるくふ
説曲ることをえまぬれさるこそ猶みふ深きなることを自さもそさる
えさる癖の世の人々の心ふ深者こそ多ひそこ〳〵 初心者道と学
ふを主ととへきを細こ今こそ ふふも及ぶぬことなれともいさこそいて
くまこ人こうて人のをこいう形ものをふことをあてをこへきし
ふあれ学問の志賀しものこ論の行ふをかくそあふもそ
いんこ〳〵こそ者こ同〳〵くこそこの為ふ力を用ふへきこそし
細ふ道のるをこなくこそふ所しかきて多末の多ふのこかつ

らひこそこそ学問のかをたに物ふさこ道をそのふふこきてこ天
地の間ふ物こうて所を生ふるこそこの物こ形ら神国ふ
生れ来つる幸ともを幸なれこそ此ふ所ふをき皇国の学を
学へき初論のこそ 玉匣 この出全篇ふのことを俗ちりてなかく
〳〵ふ作しおれこそ思て所ふへ〳〵又神道の説 上天平 又 おうつま 四十
をろこうの古ふをこそ成をのをこそ〳〵いこそ〳〵いこもくこう
るこそ人こ成ふこそよくなる物ふ所をたをこそ成をまこりの
ふこ所ふをなるこそ所ふいまをめをこ〳〵ふるこそ中ふ世俗曲
詐偽のこまさることをこそこと同こ旦所ふこそこそ定めこる
世こそ同の末の礼をおこをこそ戦ふのこそこの人の邪ふふきこ

みな国々の長（おさ）多き事し皇国の古昔ゆてあるとも我多
き事ゝえをけけちめとうく考ふべし多教成の教なるをよ
ひこそ〳〵ふかうこそ思こ又ゝ人の何ふ信けても天天と云く神
ゆることをもうさるかうのひろ事なり天て多神のまた国
ふこそ産しんも彩ひもそなを乃ものゝ問といて男天
命天道なと云くみれ神のなゝのふるゆかこそなれ又天地て
幸福（ぬか）を生育るぬと云ふも先ゝこなり男女の生育るも
みな神のゆきとさなり天地て多神の元を生育なり好く
陽不のこなり天地の元を生育るゆ問れ人ゝ
天皇人ゆ命して蒙を征伐して民を安んせむと思ふい天の

ゆきさて多しき度のゆりてひろるてなきものと笑ふゆ
世の中ゆ理ゆふるひ多事の多きいふその理ゆ多ひ多
事ゆ理も多天の命なれてせんふれしとのゆひてその
天のひうこしとをてこうきういとゝ天もひうこしとゆ
らてうの皇人ゆ命して君を立りて天下をゆうせるも天の
むうこゝゝ思へ〳〵又「世の中の男の事て以あやしきを奇く
妙なる神の御所為（ミこワザ）なるもとえきうとて己ゆかしてうの理を
以てこうゆうて世をこしいふも考もやるを理を以てこう
ふて達人の癖しをゆふこゝろの程まこふゆうやいなやゆを
以て僭（ヒガ）せん程人いうきゆふをいへこいうゝ地そゝれ古の達人の

おしかける理後世にいたりてむつかしき事の有ける事
多し又つひに理のきりかたき事に成ては霊験天といひてのかる
る皆神ある事と有べきなし 大平云 紀の事かとよりて答
えていはれる事にあらねば也 とかく 是に対せすともいつ
迄も聖人の道の有用ひて益なきことは後世のかたよりの有様
と道の奥ありては世のさるまじきゆゑよしを論し侍ることを知れ
大方に序へ合せて春海が説の非なる事を知へきなり
一 春海云 宣長か著作してる世の道を説る書は皆別にありて
痴人の夢をかたるなといふべし それに似たるを宣長か翁子も
事記神代紀は神代よりの正しき伝へなれは是を学はるへきに

事なく信せよ これを信せさらんは漢意の邪なり 大和魂なきゆゑなれ
といひて 強て信せしめんとするは 人を愚昧になさしめむとする業
にて 大和魂といふものをとりてかゝる妄説を信せしめんとする妖術と
そおほゆれ 宣長かいはゆる神代の事跡を信すへき事なりしと信
せしめんとは 宣長かいふ至愚の人なりとこそいふへけれ されとは心へあり
至愚の人とは何ぞといふにこれそ今の蒙昧の徒を欺誑して
わか偽学をうらんとての邪なる事明らかなり さるはいやし
きもいやしき心なるをや されはこそ少し憎悧の質なるものこそ宣
長か学を信する人なし いはんや学識ある人に於てをやあらんされは
宣長の教は愚昧の人のみ信をめでたく いふかたも多かるへしといふ

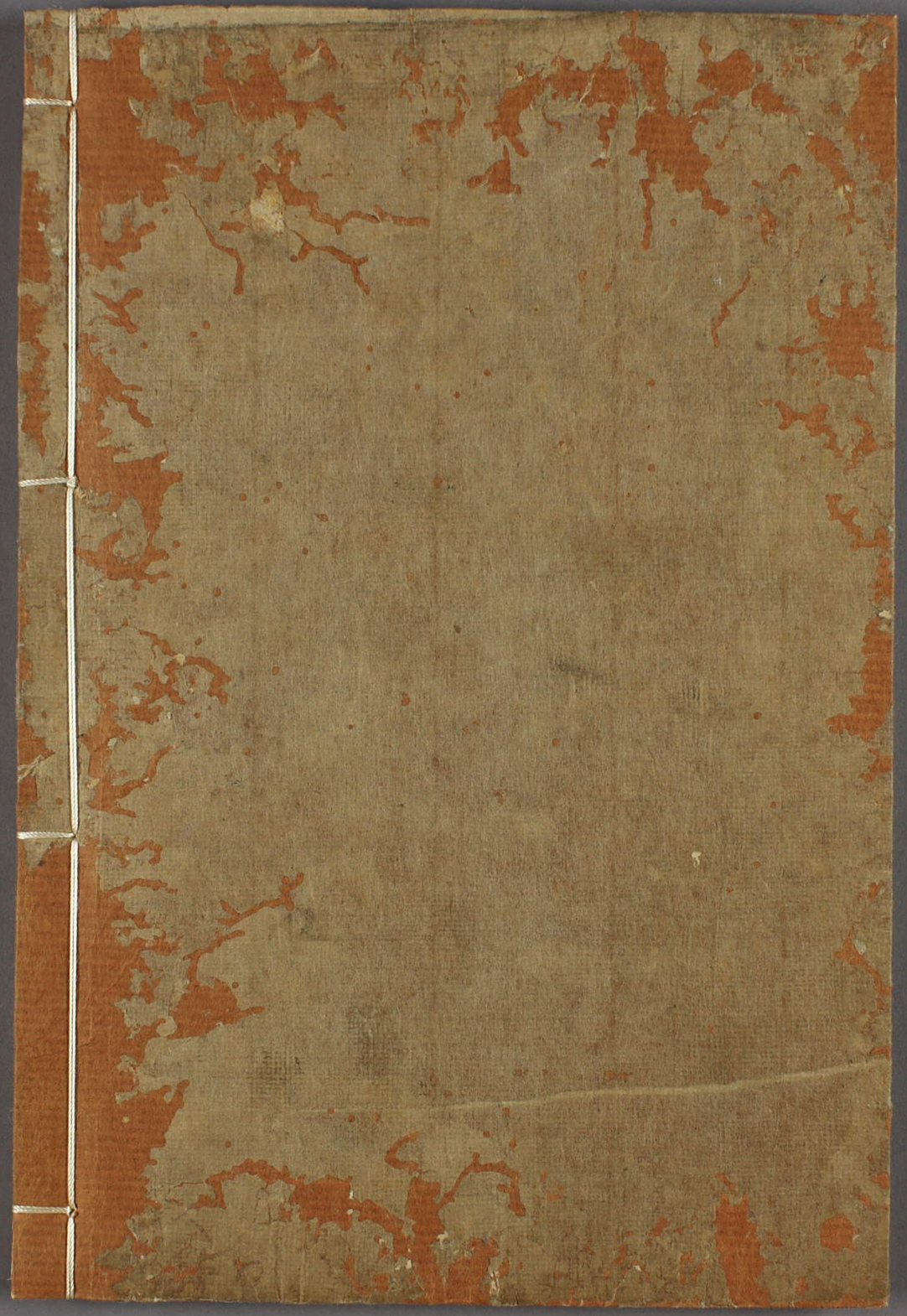
て世をあやまれるもの皆當時の人が謬て此学を信ずる人の
まて信をあつめ名教をみだりていうこと世のつきるひと此
りぬべきことなれおくべき事かなし
近世いよいよ禁止となりたる事ハ不受ふ施仏義門信なと
以ハ邪法ハ今定まりて教と民情と誑惑せんるもの二つ
の邪法ハ知るべきなり
一大平之昏昧の後を欲てうんとなるて書海をの好き当時の人
人のんよ入やすき法なるあり風流学とこそうるべきなれ
以ふ翁を至高の人と不云てもわが学をしとうんとなるは
る人なりてうもしやすき方とうれるを知るとよんはなくやと

ばるべき事ふ高時の人の系叶ふ孔子ふ学問とうう
んと骨ばらもとうるいう事へて此一段彼地の学風人のきふ
入をとるうんかのを用ふるうもうる信なう信をうう
ふけ名教をみうなるといふ事と翁ハ教ふん決てなき事と
多へていうう儒仏の道と是国ふうう来うるもみてもとは
国のこうき道ふあうされて福つ目神の冥加のめきなりまれ
くこまも一度ふ入事てこまを消滅廃棄せん事と人の力
小及ふきふとなりよりて多く千有餘年此儒仏の道の世ふ害
をなうて仏国のこうき道と世の人の不知と慨きて此国の道の
ふき事とうるうて教へ儒さんとうるのうこの事多く別小

世多くて云ふに不云さて此古学の教とうの何ゝと云二つ
の神道の教なりんと云も多く何となりとも云て此古学と云
て此破りんと云るのこの犯云こ翁ゝ著せる百敷十巻のうちと
とこゝく後考へてよく按察して後ふ云へきし皇朝と崇奉し
皇神と云敬し当時の神道今とやうて神の道のまゝ
こゝ家業ふと奉仕せるとのいつる教なるとやうの禁止せるう
二つの神道ふひとゝき教なりとその述作の中云基礎とも推
祭せる云ふこ次の条ふ宣長おの仏と同ゝ縣居の翁ゝ学
ひとゝ人なておの仏も一ゝ伊勢ふいるて引ひて行りて年仏
文のゆきしひも多ゝとゝ行りてつふ古書のうへのるなとかしと

ふ論ゝ云ひなゝ仏ゝ仏ゝうとゝ仏人ゝ仏ゝ行ゝさゝとゝ学ふ教
止せるゝ神道のめきことと教と多て仏ゝ書と著ゝ仏人の
ゝ人ゝ常ふ文ゝよゝ仏人の古書のうへの事のを学ふ論ゝてその神
教の事ゝなとゝ一度も論陳せ事ゝ事ふとゝ仏ふ実
云ハなき人なゝ多て又縣居の翁ふ教ゝむゝと古云と解教と
る事とのを明ゝて云の事とゝ仏ゝ云ゝ不学ゝ云
云ゝ仏も仏事ふ教ゝ云ゝ文きて多ゝ仏流とのを説ひて仏論
実なき人なゝ多ゝ仏ゝ師ゝ人ゝ仏ゝ学ゝて教授ゝ有ゝ
実なゝん事宣ゝ仏て学学の古云を解ゝ云とゝ云ゝ
ゝ多てつひふ皇御国の上代の道と教んの云云なる事

縣居宣計此言の弱かをのうてゆるぬとや　次の条は縣居の翁
の道を人ふかくへ多く人ゝ伝授年儀ありて
のまりか敬ふかなる事ゆて実に失言ゆを伝ゆ芝と所ゆ宣長
ら学めなつく不なかく弊をのこまれ多りとゆ伝ゆへしとい
へるくおのゝ性実なき人ゆてその学ゆも多うゆ人の流
流めき多ること言ゆて道のことを受ゆられさりつる
のゆなくと師の翁のかゆ言ゆあも多しあまつさへ縣居の翁もそ
の才子宣ゆの翁もをりてなき法かゆまりてゆくゆ学のを
ゆ教の道ゆをゆうくゆかゆ伝ひへき事のきゆを知れ
さてこそ縣居翁のゆ人ゆ道のゆく授ゆをゆつゆもかへと

かへとうへなる書たり又古言をとゆ来とゆいふ数多ゆ
ふゆ近ゆ学ふ著ゆさゆ多ゆかの斎明紀の童謡の近ゆの歌と
へてゆけよ古言の歌をゆ考ゆきあゆ多ゆ一つまひゆ
の方くかゆ伝ゆ法ゆ伝ゆそゆ余ゆ一つゆて解ゆもゆる
こと見えめとゆかくてゆ縣居大人の門人ゆなゆいゆゆゆ
さゆくこゆ学ゆ

けゆ次ゆ学問の要ゆ道ゆを学ふへきこゆゆと古学ゆ伝ゆ
ふへきこゆと伝ゆ系ゆへゆ